

2 授業実践

国際学級 グループコミュニケーション学習

「友達と話し合っ、これからどうするか判断しよう」

実施 平成26年 1月

対象 3、4、5年 ゆり組10名

授業者 早川 聡 表 賢司 岩浅健介

1. 単元の目標

- 関心・意欲・態度：友達と話し合う楽しさを感じ、積極的に話し合おうとする。
- 話すこと 聞くこと：自分の意見を持ち、正しい話型や言葉を選びながら、相手に分かりやすく伝える。
友達の意見に質問をしたり、友達へ意見を求めたりして、話し合うことができる。

2. 単元について

グループコミュニケーション学習（GCL）は、少人数グループで話し合う活動を通して、学習に必要な言葉を身につける学習システムである。ゆり組児童の実態として、日本語で日常会話ができる児童でも、学習に必要な言葉については支援が必要な児童もいる。また、学習に必要な言語の習得ができていない児童であっても、一斉授業や、グループでの話し合いに進んで参加することができない姿があった。

本校で以前から個別学習「日本語」でも、自分の考えを相手に伝える方法についての学習シートがあった。しかし、実際にはシート学習では扱いきれない様々な話型や言葉があり、実践的な力はシート学習だけでは不十分であった。そこで、実際に少人数のグループで児童同士が話し合う学習活動で経験を積み、どのような場面でも、友達の意見を聞き、自分の考えを伝えるために、児童にとって必要である様々な話型や言葉を習得させる場としてGCLを位置づけている。

GCLでは、できるだけ児童にとって身近であり、話し合う必要感のある題材で話し合うということ大切にしている。その意欲的な話し合いの中で、話し合うために必要な言語表現や、力を付けていきたいと考えている。今回の場合は児童に「出てきた意見を条件に合わせて判断し、絞りこむ力」を育むため、「ゆり組お別れ会のプログラムを決める」ことを題材として話し合いをおこなった。

「ゆり組お別れ会」はゆり組の3年生から5年生の児童にとって、これまでお世話になった6年生への感謝を伝える会であり、毎年ゲームを考えたり、プレゼントを作ったり、歌を歌って気持ちを伝えている。内容についてはゆり組全体での話し合いで決定することになるが、今回は、大人数では意見が言いづらい児童の意見も、GCLとして少人数で話し合いを行うことも題材として採り上げる理由となった。

「判断」する話し合いの題材としては、『休み時間にゆり組みんなで楽しめる遊びを考えよう』という内容で2学期に話し合いを行った。その際には遊びを絞り込む話し合いの中で、時間や場所、みんなが楽しめる適正な人数やルールなどの条件を意識して発言する姿も見られた。

今回はお別れ会全体のプログラムということで、活動の内容・時間配分・場所の設定・活動を行う順番など、児童が判断する際に考慮する要素が増えるが、遊びで話し合う際に大切に判断する話し合いの進め方や、それ以前の「理由」「比較」「賛成や反対」の話し合いで使った話形を活用していけるように児童の段階に合わせて支援を行った。グループでの話し合いを元に、学級全体での話し合いで内容は決めていくが、グループでの話し合いをそこでも生かしていく。

3. 児童の実態

これまでGCLで、比較・理由、賛成・反対などの話型を使う話し合いを進めてきた。

また、「相手の意見を聞いて話をつなげること」、「意見発表後に、どうですかと周りに意見を求めること」など、話し合いを円滑に進めていくために必要なことについても意識しながら、自分たちの力でも話し合いを進めていくことができる場面も見られるようになるなど成長している様子が見られた。しかし、3学期に入級してきたばかり児童や、まだ日本語で表現することに自信をもてない児童もいる。そのため、以下のようにグルーピングを行い、児童にとって必要な支援が受けやすいようにした。

<p>中学年 グループ①</p>	<p>入級したばかりの児童や、日本語で表現することに自信がもてない児童のグループである。自分の意見は言えるが、相手の意見を聞いて賛成したり、みんなの意見をまとめたりしていくことが苦手な児童もいる。</p> <p>教員が児童の間に入り、表現のサポートを行ったり、話し合いをつなげていくことや、意見が出るような話し方を例示して、児童に話形を使わせながら話し合いの基本的なスキルを身につけさせたりしていくことを目標としている。</p>
<p>中学年 グループ②</p>	<p>自分の意見を主張するだけでなく、相手の意見も聞いて話せる児童のグループである。相手の意見をより詳しく理解するために質問をすること、友達の考えを受けて自分の立場や意見の根拠をはっきりとさせてから話すこと、折り合いをつけて結論を求めていくことを目標としている。話し合いの場面ではできるだけ教員が出る場面を少なくしながら児童同士で話し合いが進むように声かけを行う。全員が話を理解しているかということや、言い換えなどについては教師がサポートしている。</p>
<p>高学年グループ</p>	<p>教師のサポートが少なくても、自分たちで話し合いを進めていくことができるグループである。自分の意見と友達の意見を比べながら、お互いの意見の良さを認め折り合いを付けていく話し合いを目指している。決まった話形に当てはめなくても日本語で説明することができる児童もいるが、まだ十分に表現できない児童も、周囲の児童が言いたいことを推し量りながら進めることができている。</p>

4. 学習の実際（全2時間）

学習活動	【評価】・教師の働きかけ
<p>第1次「ゆり組お別れ会」プログラムの大枠を決めよう</p>	
<p>中学年グループ①</p> <p>『ゆり組お別れ会でどんなことがしたいか』話し合おう</p> <p>○海外を含めて自分が今までにどんなお別れ会をしてきたか、経験を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで一緒にビンゴゲームをしたよ。 ・メッセージカードやプレゼントを作って渡したよ。 ・アメリカの学校の時は「〇〇さん DAY」を作って、その日1日はお別れする子がしたいことを何でもできるようにしたよ。僕も日本に来るときにやってもらいました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外で経験したお別れ会について、日本に来るときのことを思い出させるなど自分の体験を元に発表できるように声かけを行った。 ・児童がうまく表現できない場合には、教師が間に入り、基本的な話型に当てはめて話すことで話しやすくした。

・学校に家からケーキやジュースを持ってきて、みんなでパーティーをしたよ。

○学習シートにお別れ会でやりたいことと、理由について書く。

- ・プレゼント渡し：プレゼントを見たらいつでもやり組のことを思い出してくれるから
- ・ダンスパーティー：最後に楽しい気持ちで卒業して行ってほしいから

○「やり組お別れ会」ではどんなことをしたらいいか、理由も考えて意見を出し合う。

- ・私は6年生にプレゼントを渡す時間があったらいいと思います。なぜなら、プレゼントがあったらお別れ会が終わっても楽しかったことを思い出してくれるからです。
- ・6年生から話を聞く時間があった方がいいと思いました。それは、お別れ会が楽しかったか聞きたいからです。
- ・遊ぶという考えに賛成です。なぜなら、みんなで遊ぶと6年生と楽しい思い出ができるからです。

○学習の振り返り

- ・しっかりと伝えられたけれど、相手の話の途中ではなしをしてしまったな。
- ・分からないところは室温できて良かったな。

中学年グループ②

『やり組お別れ会』

○畑に植えたチューリップの写真から、やり組お別れ会について意識を持たせる

- ・6年生のために珍しい色のチューリップを秋に植えたのだったね。もうつぼみができている。
- ・去年のお別れ会では、6年生に感謝の気持ちが伝わるように歌詞を変えた歌をみんなで歌ったよ

○今年度のやり組お別れ会ではどんなことをするか。プログラムの大枠や順番を考え、ワークシートに記入する。

- ・歌は気持ちを伝えられるから合った方がいいと思う。
- ・歌を歌う意見に賛成です。去年みたいにまた歌詞を変えて歌った方が6年生も喜んでくれると思う。

・より正しく丁寧な言葉を使って話すことができるように教師が言い換え、それを児童がくり返すことで定着できるようにした。

・児童がこれまでに学習した「理由」を述べる「なぜなら～だからです」「それは～だからです」の話形を使えるように教師が正しい言い方でくり返したり、ミニ黒板に話形を提示したりして意識づけをおこなった。

この部分は
公開に適さないため
掲載できません。

・昨年度、お別れ会を経験している児童がどんなことをやったのか伝えることで、お別れ会を経験していない児童にもイメージをしやすくした。

・ワークシートにそれぞれの児童がお別れ会で行いたい事を記入する。それぞれどうしてやりたいのか理由をきちんと伝えられるように考えさせる。

・何をやりたいのか、どの順序でどれくらいの時間を使うのかなど、自分の考えについて説明できる

- ・宝探しゲームをして、カプセルに6年生へのメッセージをいれておくのはどうですか？
- ・ゲームの中身は後で考えるようにしようよ。まず、ゲームはゲームということにして、他にもどんなことをやりたいか話さなきゃいけないよ。
- ・それは賛成だけど、部屋の中でするゲームか、外でするゲームか決めないと時間がどのくらいかかるのか分からないね。
- ・ゲームは1つだけだとみんな飽きてしまうから2、3個考えておいた方がいいと思う。
- ・45分の内、遊びの時間に使えるのはどれくらいかな。30分だと他のことができなくなっちゃうね。
- ・交流ルームから体育館や校庭に行くとしたら、その分の時間もかかるよね。交流ルームでできる遊びにしたなら時間がたくさん使えるよ。
- ・はじめの言葉とか、終わりの言葉をお楽しみ会では言っているよね。だから、お別れ会でもあったほうがいいと思う。

○学習の振り返り

- ・途中で意見がうまく説明できなくて、困ったこともあったけれど、どこでずれているのかわかろうとしてくれて、何とか伝わってうれしかった。

高学年グループ

○ゆり組お別れ会はどんな会にしたらいいか考える。

- ・6年生にとって楽しい思い出になる会にする。
- ・6年生が感動する会の方がいいと思う。
- ・サプライズがある会にしたらいいと思うよ。
- ・6年生がやりたいことができるといいと思う。6年生に何がやりたいか聞くのがいい。
- ・6年生はもちろん大切だけど、ゆり組みんなで楽しめることも大事じゃないかな。3年ゆり組の子でも楽しめる方がいいよ。

○今年度のゆり組お別れ会ではどんなことをするか。プログラムの大枠や順番を考え、ワークシートに記入した内容を理由とともに友達に伝える。

- ・遊びやゲームの時間はゆり組民のみんなが楽しめるからあった方がいいと思います。

- ・自由に考えさせる空欄のプログラムを提示し、どのようなことを進めていか学習シートに記入させる。話し合うための材料であるため、書く時間が長くなりすぎないようにする。
- ・プログラムの空欄となっている時間は、『45分』であること、場所は、『交流ルーム』であるという条件を伝える。
- ・自分の意見を友達に理由を添えて伝えている。
- ・このグループでは、話形がうまく使われているときにほめるなど、話形についての意識はさせるが、不自然でなければ必要以上に言い直しはさせない。

この部分は
公開に適さないため
掲載できません。

- ・時間内でできる活動か、お別れ会の趣旨に合っている活動かを意識させ、判断の根拠につなげる。
- ・プログラムとして提案された活動には相手のどんな思いがこめられているのか理解し、自分の意見と比べて判断する話し合いができる。
- ・意見を聞いている友達からも質問をさせるようにし、児童が中心になって話し合いが進むようにする。
- ・自分の意見を言ったら、そのことについて他の友達がどのように思うか意見を求めるようにさせる。
- ・話し合いで、視点が逸れている場合は、再考を促す。

- ・遊びはけんかにならないような物がいい。だから、勝ち負けや罰ゲームがないようにした方がいいと思う。
- ・歌は今年のオペレッタの曲がいいと思うよ。去年もオペレッタの歌をみんなで歌ったら6年生が喜んでくれていたから。

○プログラムを話し合いで決める。

- ・遊びの数は、少ない方が長い時間遊べていいと思います。
- ・せっかく花をゆり畑で育てているからプレゼントの時間は、あった方がいいです。
- ・ただ楽しむ遊びだけじゃなくて、6年生との思い出を取り入れた遊びがいいと思います。
- ・プレゼントだけでなく一緒に歌を歌う時間もあったほうが心に響くと思います。

○全体で集まり、学習のふりかえりをする。

- ・友達の意見でよく分からなかったところがあったけれど、どこが分からないのかははっきりさせて話し合ったらわかるようになってよかった
- ・友達に理由をしっかりと聞いたから、賛成か反対か自分でも意見を言うことができたと思います。
- ・わたしのグループでは、何のためにこの会をするか考えました。6年生が喜ぶ会になるようにたくさん意見が出てきて良かったです。
- ・グループでは、プログラムの順番や、何分時間をとるかでなかなか意見が合わなかったです。もう少し話しをしていきたいです。

この部分は
公開に適さないため
掲載できません。

- ・友達の意見を自分の意見と比較しながら聞いているか。
- ・賛成・反対の立場をはっきりさせて意見を述べるができるか。

- ・自分の意見に理由をつけて話す場面では、どんな思いがあって、その活動に時間をかけたいと思っているのかを伝える。

- ・時間や場所を考慮して判断する場面では、内容がおおわれ会の主旨に沿っているか、相手意識があるかどうか
- ・活動の数や1つ1つの活動の時間について、また全体の雰囲気考えた順番についてなど自分の意見をきちんと説明することができるか。

- ・話し合う活動を通して、どのように話し合いをしたら上手くいったかを考えさせて、ふりかえりをおこなう。

- ・話し合いの様子や、感想をグループごとに発表させそれぞれのグループで学んだことや、友だちの良い表現などを全体で共有し価値づけていけるようにした。

- ・全体でのふりかえり場面で発表する場面でも、実際にこれまでのグループコミュニケーションで学んだ話形を使うことができている児童もおり、改めて評価することで児童が意識して使っていけるようになってきている。